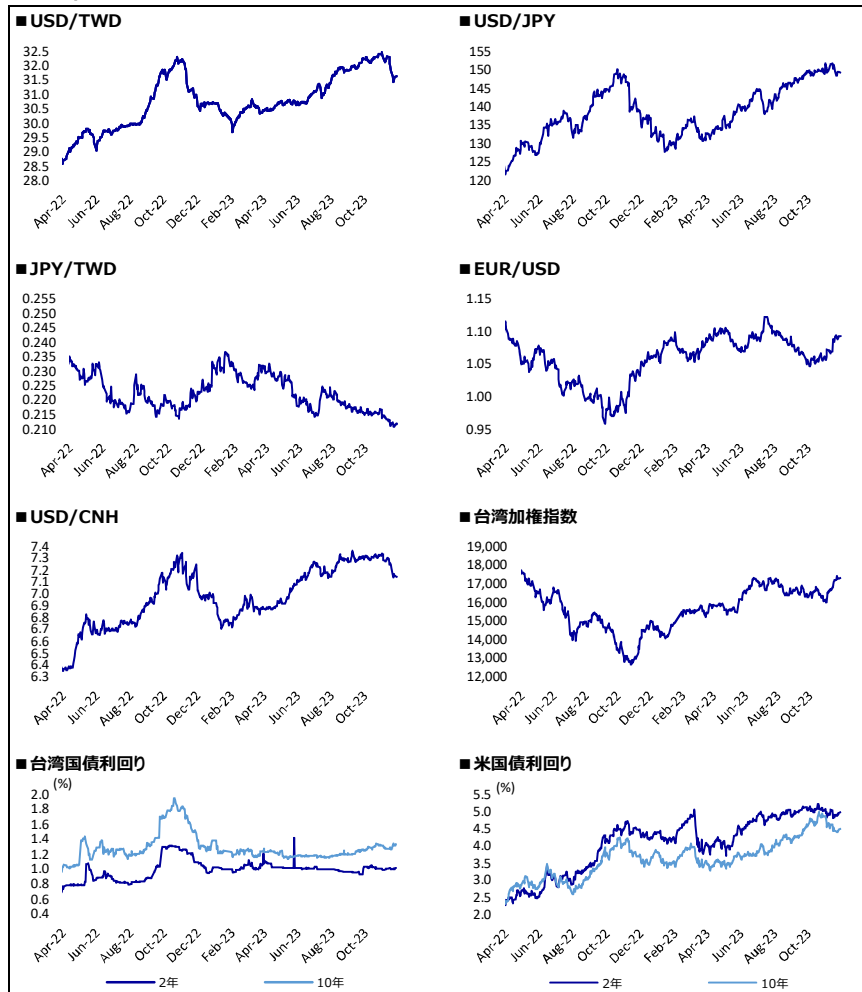


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/20は、32.330でオープン後、米中首脳会談で対話の再開が確認されたことや、台湾総統選を控え野党一本化への期待感が高まっていたことが背景となり、リスクセンチメントが改善。台湾ドル買いが優勢となり、31.65近辺まで下落した。11/21は米金利の低下を好感して台湾株価が上昇する中、台湾ドル買いが優勢となり31.40台前半まで下落。11/22は寄り付き後、米金利が低下する中、ドル売りが優勢となり一時31.380まで下落した。しかしその後、台湾株価が下落を始めると、リスクセンチメントの悪化からドル買い優勢な展開となり、31.50台まで上昇。11/23は前日発表された米雇用指標や米11月ミシガン大消費者インフレ期待が堅調な結果となったことを受けて31.645まで上昇したが、その後、輸出業者によるドル売りが見られ31.50台まで下落。11/24は米国の感謝祭の影響で取引が閑散な中、方向感無く推移。31.60を挟み揉み合いとなり、最終的には前週比0.7%ドル安台湾ドル高の31.628で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は486.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初11/20は149.55でオープン後、米国における早期利下げ観測の高まりからドル売りが優勢な展開となり、148円台前半まで下落。11/21は米長期金利の下落を背景にドル売りが優勢となり、一時147.16まで下落。海外時間に入るとFOMC議事録を控えて下落幅を縮小し、148.50近辺まで戻した。11/22は米新規失業保険申請件数や、ミシガン大消費者インフレ期待が堅調な結果となったことを受け米金利が上昇する中、ドル買いが優勢な展開となり149円台半ばまで上昇。11/23は日米が休場となる中、方向感に乏しい展開となり、149円台前半で揉み合いの展開。11/24は日10月CPIが発表され、前月対比インフレが加速していたことが確認されると、日本国債金利が上昇する中、円買いが優勢となり149円台前半まで下落。海外時間に入ると米金利が上昇に転じる中、ドルが買い戻され、最終的には前週比0.1%ドル安円高の149.47で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.400-31.700
今週は上値の重い展開を見込む。月末の輸出企業によるドル売りの動きが入ってくる場合、台湾ドルは買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.00-150.00
今週は揉み合いの展開を見込む。日10月CPIが堅調な結果となったことで円買い圧力は高まっているが、米国重要指標を控え、方向感を見出しづらい展開となるであろう。

今週の予定

11/20 (MON)	日10月サービスPPI、米10月新築住宅販売件数
11/21 (TUE)	米11月カンファレンスボード消費者信頼感指数
11/22 (WED)	独11月CPI
11/23 (THU)	日10月鉱工業指数、米10月PCE
11/24 (FRI)	台湾12月PMI景況感指数、米11月ISM景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。